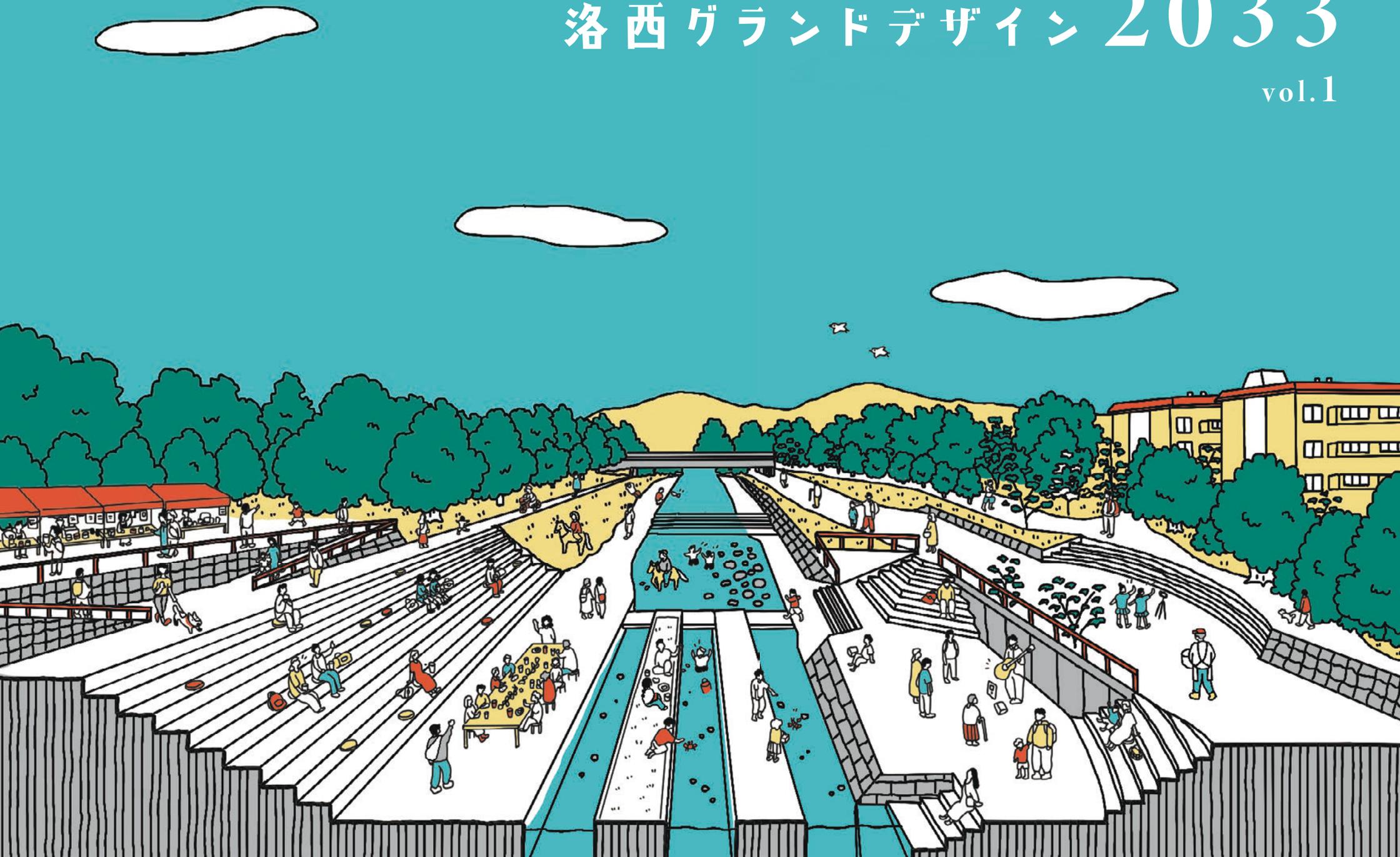


【参考資料2】

洛西グランドデザイン 2033

vol.1



洛西グランドデザイン 2033

50年が経過しようとする「洛西ニュータウン」。その原点を辿ると、100年前に世界で初めて誕生した英国のニュータウン「レッチワース」にいきつきます。

レッチワースは、エベネザー・ハワード(1850-1928)が提唱した『田園都市論』に基づき創られた初のニュータウン。田畑や山林に囲まれた美しい「田園」と人々で賑わう「都市」の「結婚」こそが、郊外の理想郷と標榜され誕生しました。レッチワースはいまもなお自然やガーデンの美しさ、上質な暮らしと、人々で賑わうスクエア(タウンセンター)が日常の風景として保たれています。京都らしく、洛西らしく、伝統と、原点と、そして現在を見つめ、未来を想像した時、洛西ニュータウンはどういった姿が相応しいでしょうか。均質化してしまったニュータウンを見直した時、田園を辿り(大原野)と都市(タウンセンター)の結婚は、今の時代だからこそニュータウンの暮らしの本質を現しているのではないのでしょうか。

まちに住む人々が、ともに語り、食卓を囲み、交流し、まちがアップデートされていく。家の中の暮らしから、まち全体での暮らしへと変わっていく、未来の暮らし方を想像してみてください。西山を望む美しい景観、まちの中心に流れ憩いの場である小畑川、大原野の豊かな農の恵み、ニュータウンならではの豊かな公共空間を再評価し、時代に合わなくなったものを少しずつリニューアルしていく。

住む人と働く人、市民と行政が同じ目線で手を取り合って、ともにまちの未来を描いていく。「洛西ニュータウン」だからこそ実現できる未来(グランドデザイン)を共に創り出していきたいと考えています。

未来の洛西って〇〇かもしれない

京都市の若手職員を中心に10年後の洛西の姿を描き考えたビジョンです。市民の皆さんと一緒に、公園や広場などのパブリックスペースの新しい使い方を模索しながら、その結果を踏まえてこのビジョンもバージョンアップしていきたいと考えています。「未来の洛西ってこうなっていたら面白い!」「わたしにもこんなことできる?」と思い描きながらご覧ください。

グランドデザイン構成

02 ビジョン

P5-6

職員ワークショップの過程や、ワークショップから導き出された4つのビジョンについて掲載した章になります。ここで生まれたビジョンに基づいて、ペルソナやエリアの未来の姿を考えました。

03 ペルソナ

P7-12

10年後、ビジョンが実現されたときに住んでいそうな人たちを紹介する章になります。各世代の暮らし方、またそこからピックアップした4人のペルソナをご覧ください。

04 エリア

P13-24

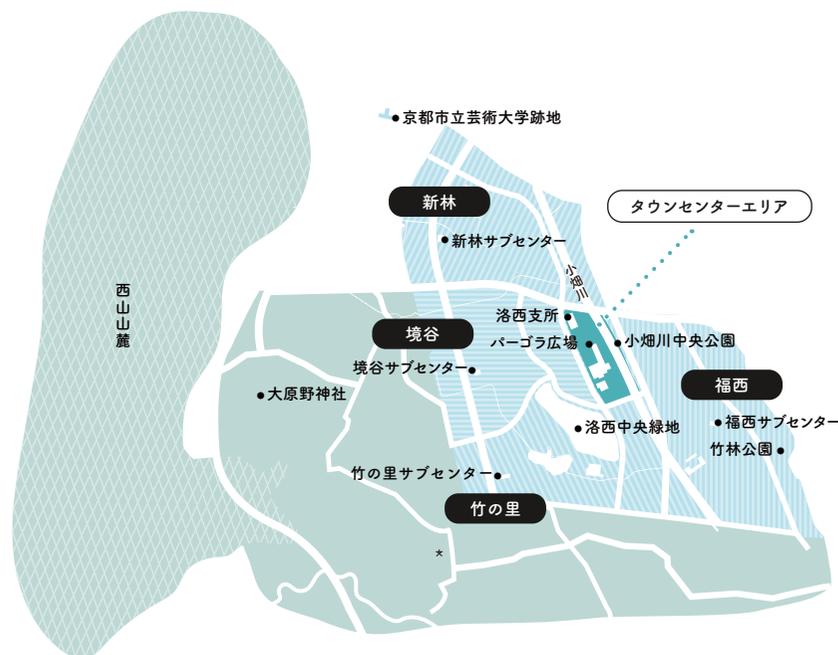
洛西各地の10年後のまちの姿を紹介する章になります。上記で設定したペルソナが洛西のまちなかでどんな過ごし方をしているかをご覧ください。

05 これから

P25-26

ビジョンを実現する過程で生まれるコミュニティの変化を描いた章になります。また、現在洛西で展開されている取り組みについても紹介しています。

ビジョンとペルソナから設定



洛西ニュータウンの成り立ち

洛西ニュータウンは昭和51年にまちびらきした、京都で初のニュータウン。住宅不足の時代に、乱開発を防ぎ、秩序ある住宅街を生み出すことを目的に誕生しました。

小畑川の改修による親水空間の創出や多くの公園緑地の配置、完全歩車分離を目指した道路計画など、緑豊かで魅力的な住環境となるよう計画・開発が進められました。

洛西ニュータウンのあらまし

- まちの中央には、小畑川の親水空間に沿ってまちの中核エリアである「タウンセンター」が、まちを構成する4つの街区には、日常生活の拠点となる「サブセンター」が設けられています。
- 住環境としては、中央部分にUR団地や公営住宅などの中高層の団地が計画され、周辺部にはテラスハウスやゆとりある広さの戸建て住宅などの分譲住宅が立地しています。
- ニュータウンの中心には小畑川が流れ、市民の憩いの場として親しまれているほか、中央緑地や竹林公園などの多くの竹林が残されている点も特徴的です。また、ニュータウンに隣接して、魅力的な田園風景が残る大原野エリアが広がっています。

洛西ビジョンづくりワークショップ

ランドデザイン策定にあたり、洛西ニュータウンの将来を考え、積極的に関わりを持ちたいと考えた京都市職員有志約30名が定期的集まりワークショップ形式でアイデアを出し合いました。ビジョンづくりの参考になりそうな国内外の先進事例を持ちより学び、将来のビジョンの仮説を立て、検証(実証実験)をしながら4つの仮説ビジョンを考えました。



ワークショップ1

まちを知り仮説を立てる

洛西ニュータウンの現状を座学とフィールドワークでインプットした後、10年後の洛西は「もしかしたらこうなっている?」「もしかしたらこんな人が暮らしている?」という仮説を立て、将来をイメージしました。



ワークショップ2

ビジョンを設定し実証実験の準備をする

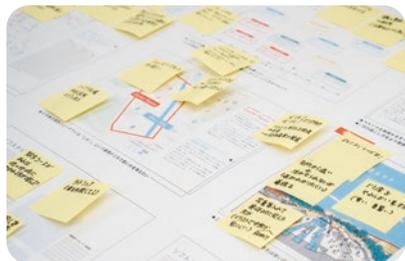
10年後の洛西ニュータウンのビジョンや取り組みを検討しました。また、この後に予定している実証実験でできそうなことについてもアイデアを出し合いました。ビジョンを描き、具体的な取り組みを考えました。



ビジョンを試す実証実験

未来の洛西って〇〇かもしれない

職員たちが考えた「未来の洛西って〇〇かもしれない」を実験的に試しました。ビジョンが実現されたときに起きていそうな取り組みを実験的に実施したり、考えたビジョンの方向性で良さそうかを市民のみなさんに尋ねるヒアリングなどを行いました。



ワークショップ3

振り返りとこれからの関わりを考える

これまでの研修を通じて考えたことや実証実験を通じて得た成果をもとにランドデザインを検討しました。またこれまでの研修を振り返り、今後の市職員一人ひとりができる関わり方についても検討しました。

未来の洛西って

〇〇かもしれない4つのビジョン

ワークショップや実証実験から見えた結果を洛西のビジョンとして4つの方針で整理しました。

ビジョン①

まち全体が家のように 完結するまち

洛西のまちをひとつの家に見立てると、いまはもしかするとただの寝室(=ベットタウン)でしかないのかもしれませんが。将来、まちの真ん中にダイニングのような空間ができて、家族のようにみんなで食事ができたり、リビングのようにみんなで話せる場所ができればもっと豊かな暮らしになるのかもしれませんが。

ビジョン②

利便性を追求しすぎない 新しい働き方

新型コロナウイルスの流行を経て働き方の見直しが行われ、オンライン会議などの技術が飛躍的に発達し、移動をせずとも働けるようになってきました。洛西ニュータウンの自然に囲まれた空間の中で、新しい働き方やまちに合った環境や仕組みを整えば、ニュータウンでゆったりと働くという暮らしが最先端なのかもしれません。

ビジョン③

時代に応じた 新しい住み方

洛西ニュータウンができてからおよそ50年が経ち、まちびらき当時のライフスタイルから随分と変わりました。洛西を選び、長く住みたいと思えるまちであり続けるには、古いものをただ建て替えるだけでなく、いまの暮らしにあったものにアップデートしていく必要があるのかもしれませんが。

ビジョン④

人とエリアが交流し つながるまち

洛西ニュータウンは4つの地区と周辺には大原野の豊かな自然が広がるまちの構成になっています。各エリアにあるサブセンターや公園を中心に、さまざまな取り組みが展開されることにより、地区内の関係づくりや、まち全体をつなぐようなことができれば洛西のコミュニティがより豊かになるのかもしれませんが。

こんな人が住んでいる かもしれない

4つのビジョンが実現した洛西は、子どもからお年寄りまで、暮らしを楽しむ人々がまちなかを上手く使いこなしているかもしれません。

- ビジョン① まち全体が家のように完結するまち
- ビジョン② 利便性を追求しすぎない新しい働き方
- ビジョン③ 時代に応じた新しい住み方
- ビジョン④ 人とエリアが交流しつながるまち

はる 12歳

Pick Up /

ストリートスポーツが
できる暮らしを楽しむ

#パブリックスペース
#趣味でつながる仲間

スティーブ 22歳

Pick Up /

農のある
暮らしを楽しむ

#動物共生と共生する暮らし
#クリエイティブタウン

あやの 34歳

Pick Up /

子どもと向き合う
暮らしを楽しむ

#子育て
#職住近接

しんじ 46歳

クリエイターとして活躍
できる暮らしを楽しむ

#DIY
#公園づくり

たかし 58歳

ふらっと出かけられる
暮らしを楽しむ

#充実した休日
#地元愛着

ゆうじ 18歳

趣味を披露できる
暮らしを楽しむ

#趣味
#交流

じゅん 28歳

みんなで食卓を囲む
暮らしを楽しむ

#食
#タイムシェア

リア 42歳

Pick Up /

ペットがいる
暮らしを楽しむ

#ペットフレンドリー
#魅力発信

けんた 48歳

地元食材を活用した
暮らしを楽しむ

#地産地消
#趣味づくり

のぼる 72歳

Pick Up /

シェアする
暮らしを楽しむ

#緑道河川のある暮らし
#シェア菜園

あやの



#洛西ではたらく

#サポートし合える子育て

#小中一貫校

洛西で生まれ育ち、豊かな自然と都心に出やすいところが好き。自然あふれる中で子育てをしたいと思い、洛西に住み続けている。夫婦ともにリモートワークが多く、場所に縛られない働き方のため、子どもが自然豊かな環境で育つ場所を優先した。子どもは小中一貫校に通い、地域の大人による出前授業を楽しんでいる。また、センタースクエアのシェアキッチンでは、夫が時々働き、みんなが集まり晩ごはんをつくる会を楽しみにしている。子育てに最適な利便性と自然環境が気に入り、この先も住み続けたいと考えている。

プロフィール



住まい

竹の里地区の市営住宅(賃貸)に住む。洛西生まれ。居住歴34年。



家族

母、夫、子どもと一緒に住んでいる。34歳。



活動

建築士として古民家や公共空間の再生・活用に取り組んでいる。

平日の過ごし方

- 6:00 • 起床
- 7:00 • 朝食
- 8:00 • 子どもを見送る
- 9:00
- 10:00 家事の後、自宅で仕事
- 11:00 夫は川辺のコワーキングで仕事
- 12:00
- 13:00 自宅で夫婦揃って食事
- 14:00
- 15:00 子育てサロンに参加
- 16:00 • 子ども帰宅
- 17:00
- 18:00 みんなで晩ごはんをつくる会で夕食づくり
- 19:00
- 20:00
- 21:00
- 22:00 • 就寝

プロフィール



住まい

新林地区のグループホームに住む。結婚を機に移住。居住歴48年。



家族

妻と同世代、3世帯でグループホームに住んでいる。72歳。



活動

退職後は、地域活動やサブセンターでコミュニティ再生に取り組んでいる。

休日の過ごし方

- 6:00
- 7:00 • 起床
- 8:00 • グループホームのみんなと朝食
- 9:00
- 10:00 シェア農園で野菜の手入れ
- 11:00 若い世代から野菜の育て方を聞かれることが増えてきた
- 12:00
- 13:00 畑で採れた野菜を使ったランチ
- 14:00 • 図書館で過ごす
- 15:00
- 16:00 車を手放しているのでシェアライドで買い物に
- 17:00 • シェア農園の様子を見に行く
- 18:00 • 夕食
- 19:00
- 20:00
- 21:00 • 就寝
- 22:00

のぼる



#農とコミュニティ

#シェアモビリティ

#セカンドライフ

まちびらき当初から洛西に住み、洛西への愛着が人一倍強い。団地の新たな活用として、1階にできたグループホームに入居し、地域の人たちを見守りながらもそこでできる新たなコミュニティを楽しんでいる。すでに車は手放していて、市内の移動はシェアライドを利用。同乗する近隣住民と交流ができるのが気に入りによく利用している。最近の楽しみは、団地内シェア農園で野菜を育てること。同世代のみならず、最近引越してきた若い世代とコミュニティを築いている。素人ながら図書館やウェブで勉強し、周りから頼りにされている。

リア



仕事の忙しさを癒せるように緑と川のある洛西ニュータウンを選び住んでいる。ペットと緑道沿いを散歩するのが日課。自宅に庭はないが、緑道沿いの手入れされた植栽を自分の庭のように感じている。また、散歩のついでにタウンセンターで開催されているマルシェにいたり、河川敷での食事会への参加などを楽しんでいる。居住者との交流から健康への意識が高まり、公園などで定期的で開催されているヨガ教室に参加しはじめた。最近では、仕事のスキルを活かして、大原野エリアを楽しむ日帰りプラン、おすすめスポットなどをSNSに投稿している。

プロフィール



住まい
境谷地区の分譲団地にペットと暮らしている。居住歴8年。



家族
単身暮らし。小型犬と一緒に住んでいる。42歳。



活動
京都市内に勤めているがテレワークも。旅行プランなど企画をつくるのが得意。

休日の過ごし方

- 9:00 • 起床、朝食
- 10:00 • 犬とパークヨガに参加
- 11:00 • その後マルシェを散歩がてら参加
- 12:00 • 川辺で食事(ダイニングアウト)
- 13:00 • 新たなペット仲間ができ
- 14:00 • 今度一緒に散歩することに
- 15:00 • ペットと楽しめるお出かけ先として大原野エリアの情報をSNSで発信
- 16:00
- 17:00
- 18:00
- 19:00 • 夕食
- 20:00 • 夜の散歩
- 21:00
- 22:00
- 23:00
- 00:00
- 01:00 • 就寝

プロフィール



住まい
大原野の古民家で友人3人とシェアハウスに暮らしている。居住歴3年。



家族
両親はイギリスに住む。馬と一緒に住んでいる。22歳。



活動
大学で美術を学ぶ大学2年生。馬術部所属。大原野のアトリエで創作活動をしている。

平日の過ごし方

- 6:00 • 起床
- 7:00 • 朝食、飼馬の餌やり
- 8:00
- 9:00 • 通学
- 10:00
- 11:00
- 12:00 • 大学で授業
- 13:00
- 14:00
- 15:00 • 帰宅、アトリエへ向かう
- 16:00
- 17:00 • 制作活動及び馬と散歩
- 18:00 • シェアハウスの仲間と自宅で食事
- 19:00
- 20:00
- 21:00
- 22:00 • 就寝

スティーブン



高校時代に訪れ憧れを持った京都の大学に進学することになり、移住者向けシェアハウスを見つけ、故郷のレッチワースに似た洛西ニュータウンに移住。大学では美術を学び、馬術部に所属。大原野や亀岡などの近隣のエリアにクリエイターが多くいるを気に入っている。自身も大原野にアトリエを借りており、日々創作活動をする傍ら、自馬を公園や川に連れてきて散歩している。月に一度アトリエを地域に開放して、まちの人たちが芸術に触れられる場づくりにも取り組んでいる。

水と育むニュータウン

小畑川を挟み良好な住環境が整うニュータウン。他のニュータウンにはない特徴である「水」とともに未来を「育む」自然豊かなまちとしての発展を目指します。

人々が集まるまちの結節点 センタークスエア

Center Square

タウンセンターは、50年のときを経て、まちの中心の「Center Square」へ。

商業施設のリニューアルや、バスターミナル、中央公園の再整備など、子育てもしやすく、様々な人が出会える場を目指します。

リバーサイドにあるスクエアとして洛西ニュータウンならではの立地と魅力を活かし、時代に合った中核エリアへと生まれ変わること、にぎわいの担保と、人々が交差する結節点として、暮らしのあらゆるシーンを支え、生活の質を高められるエリア再編を目指します。

人々が集い、囲み、語り、交流できるリバーサイド

River Side

洛西ニュータウンの象徴でもある小畑川。まちの中心を縦断する河川空間を、住む人々や訪れた人々が集い、囲み、語り、交流できる River Side として、再定義、再評価します。

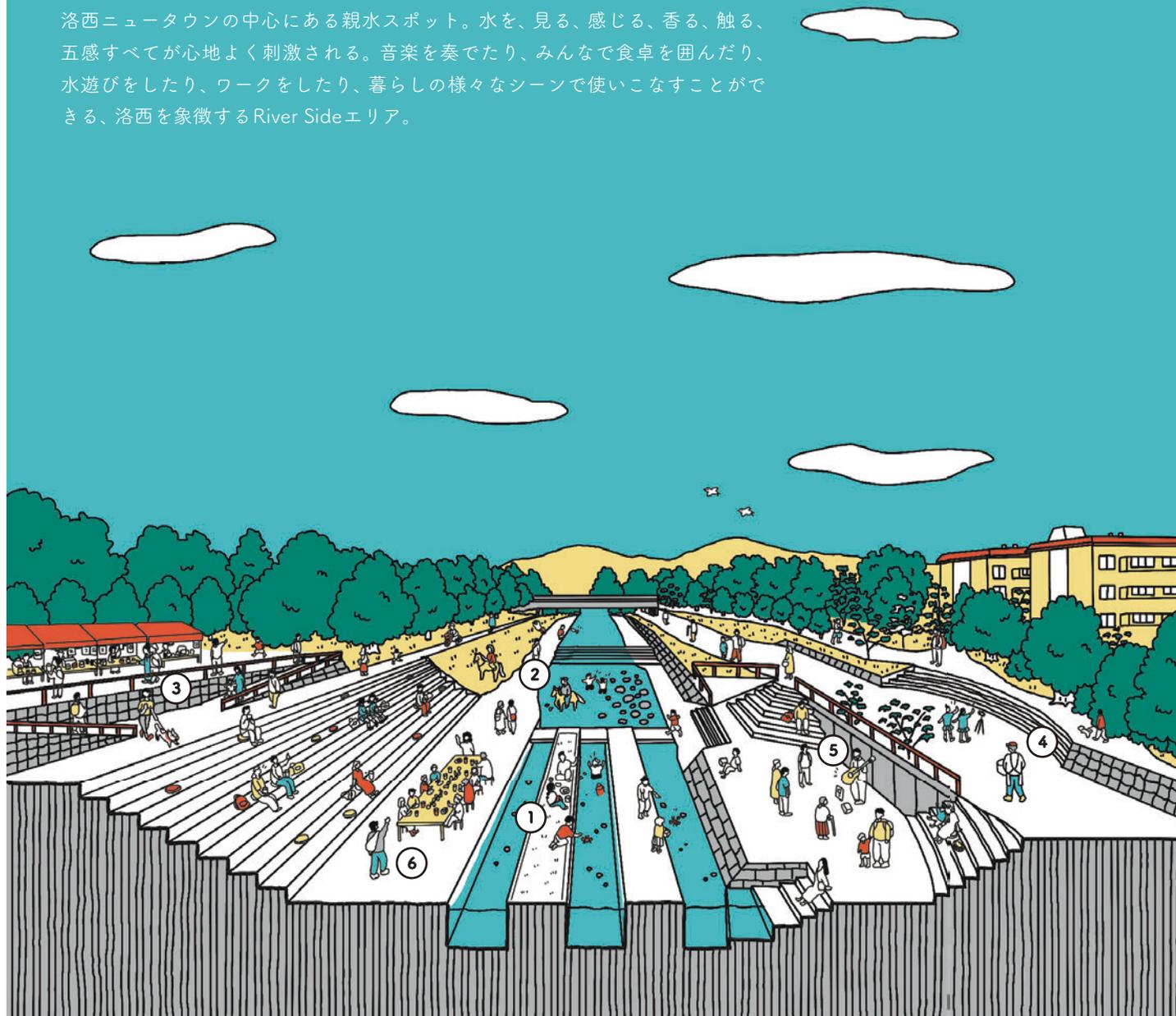
水辺があるからこそ実現できる、美しく丁寧で活気あるニュータウン、洛西ニュータウンの代名詞として、気持ちのいい河川敷として、使い方の提案や発信を強化することを目指します。



暮らしに隣接した水辺のある暮らし

小畑川河川敷エリア

洛西ニュータウンの中心にある親水スポット。水を見る、感じる、香る、触る、五感すべてが心地よく刺激される。音楽を奏でたり、みんなで食卓を囲んだり、水遊びをしたり、ワークをしたり、暮らしの様々なシーンで使いこなすことができる、洛西を象徴するRiver Sideエリア。



①身近にアウトドアができる場所(あやの)

天気の良い平日の子育てサロンは河川敷のテーブルで、お茶をしながら情報交換や相談のおしゃべりが弾む。子どもたちは大人の近くで水遊びや、絵本を読んだり、近所の人が連れてきたペットと触れ合ったり自由に過ごしている。

②人と動物の共生(スティーブン)

イギリスの日常であるアフタヌーンティーを小畑川で楽しむ。洛西でとれた茶葉で紅茶をつくり、自家製スコーンを片手に草を食む馬を眺めている。

③自然とつながりが生まれる空間(リア)

一人で過ごしたいときは橋上から眺めたり、誰かと過ごしたいときは川沿いへ降りたり。散歩中にペットと共に参加できる河川敷での食事会が気に入っている。ここでの交流がきっかけで大原野エリアへも散歩に行くように。

④緑や水を感じながらの健康維持(のぼる)

緑道で車道と交わることなくまち一体がつながるニュータウンの魅力を散歩しながら味わっている。自宅から緑を感じながら河川敷まで歩いて来ると、人々の賑わいが見え始め、電動モビリティで散歩する定番立ち寄りエリアになっている。

⑤音量を気にせず楽器の練習ができる(ゆうじ)

河川敷で楽器演奏をしている。先月出会ったギターをこよなく愛する老紳士とのセッションに講じたり、子どもたちに昔の動揺を歌ったり、アコースティックギター1本でまちのみんなと繋がれるのがこのエリアの魅力だと感じている。

⑥ダイニングアウト(じゅん)

金曜日の夕方から開催される、持ち寄りパーティー「ダイニングアウト」に参加するのが何より楽しみ。旬の食材を持ち寄り、みんなでアイデアを出し合いながら料理が得意な友人たちと料理をつくり、一つのテーブルを囲む時間が豊かだと思う。

川を見ながら芝生に転がる暮らし

中央公園エリア

川と商業施設に挟まれた、気持ちのいい緑の空間。芝生で転がったり、遊具で遊んだり、ストリートスポーツを表現したり。川や団地が見通せる気持ちのいい植栽帯と、ゆるとと区切られた段差が居心地の良さを醸し出す。季節に応じて様々な遊びが行える、まちの中央にあるみんなの癒しのCenter Gardenエリア。



①屋外で気持ちよくリフレッシュができる(あやの)
朝は公園で森林浴をするのが楽しみ。小畑川が見えるベンチでオンラインミーティングをするのが日課。仕事をしていると、気づけば子どもたちの「ただいま」の声が聞こえて、時間の移り変わりに自然と気づく毎日が楽しい。

②イギリス式遊具の提案(スティーブン)

イギリスの公園では当たり前になっているインクルーシブ遊具を企業とタイアップして仮設に協力している。自身の創作でペイントも施している。ホースセラピーの資格を活かして、遊具で遊ぶ子どもたちに馬に触れ合う機会をつくっている。

③愛犬と過ごせる場所(リア)

パークヨガに参加したり、ペット仲間が不定期で開催しているドッグランプログラムの当日のサポートをしている。ペットと参加できるイベント情報として、当日の様子や次回開催予定などを時々 SNS に投稿している。

④ひとりで緩やかに過ごす(のぼる)

珈琲やビールを片手に、屋外で読書をするゆったりとした時間の過ごし方が気に入っている。まちのみんなでおすすめの本を持ち寄って私設の図書館をつくったり、夜は映画上映会をしたり年齢に関係なく友達ができるのが中央公園の醍醐味。

⑤ストリートスポーツで賑わう(はる)

学校帰りにスケートボード仲間と集まり、年齢に関係なくみんなで一緒に技術や技を磨き合っている。休日にはパルクールやプレイキンなど、訪れた人に見てもらえる環境でダンスに興じる時間も豊かだと感じている。

⑥DIYでつくる公園(しんじ)

アーティスト仲間と一緒にペインティングした遊具を目的に、我が子と一緒に公園に遊びにきている。親同士の会話の中で家具のリペアをお願いされ、今度大原野の製作アトリエで一緒につくろうと盛り上がっている。

田園と都市がつながる暮らし

パーゴラ広場周辺エリア

公園と商業施設に隣接した憩いと出会いの広場。全天候型の幕屋根の下では、雨の日も集うことができ、子どもからシニアまでが思い思いに過ごすことができる。ファーマーズマルシェでは大原野のお野菜が並び、まちの人々も時にはお店を出したり、ときには読書をしたり、そこに行けば誰かに出会える、何かに出会える、新しい洛西ニュータウンのホットスポット。



①野菜で郊外エリアとつながる(あやの)

大原野や竹林の生産者が開催するポップアップマーケットで1週間の肉や卵、野菜などを購入。みんなで共有するレシピアプリで、購入した食材のメニューも見られるので料理がもっと好きになって嬉しい。

②アート×農で出店(スティーブン)

アトリエの仲間とともにアートグッズを制作し、定期的に出店している。「ファンです」と子どもたちにも言ってもらえることが何より嬉しい。飼っている馬の糞でつくった肥料なども家庭菜園に取り組み皆さんに実付きが良くなったと好評を得ている。

③郊外の魅力が集まる場所(リア)

マルシェで知り合った農家の畑にお邪魔したり、おすすめされた植物店やカフェなど、大原野エリアとつながるきっかけとなった。休日のおでかけ先として豊かな田園風景を見ることが気に入っており、エリアの魅力発信を自分ができる範囲で行いたいと考えている。

④安心・安全な地元で採れる食(のぼる)

シェア農園で収穫した野菜を広場に面して開放された商業施設で常設販売している。毎日訪れてくれる近隣住民との何気ない交流がたまらなく好き。

⑤趣味が少しのチャレンジできる場所に(けんた)

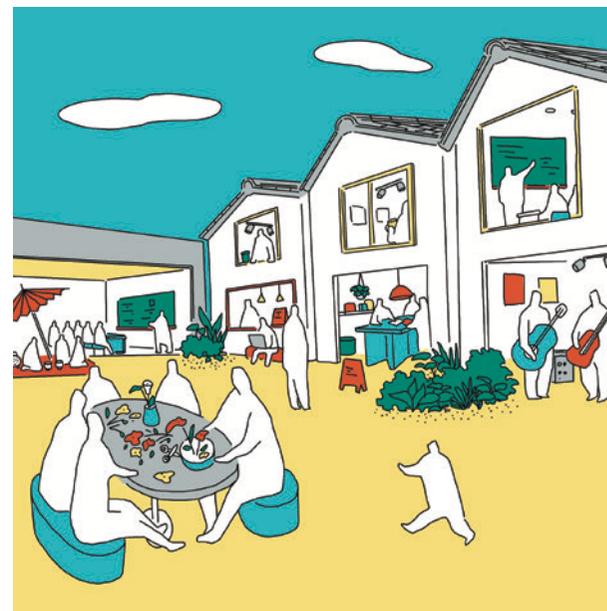
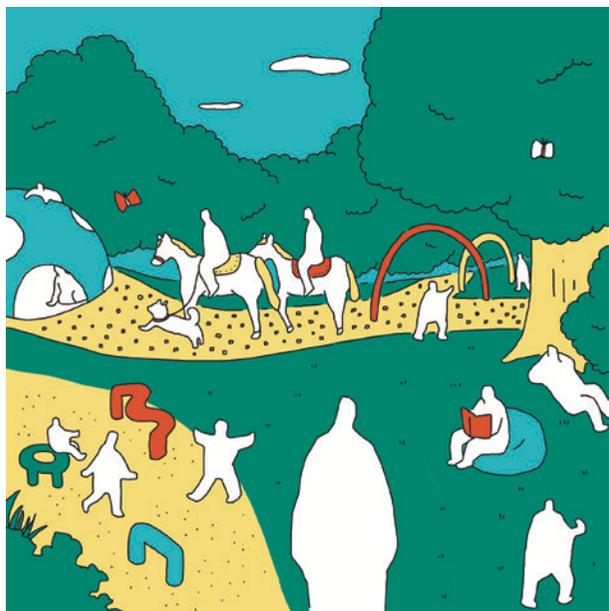
自宅やシェア農園などで採れた洛西産の果実を使った、新しいノンアルコールカクテルを飲むのが最近の洛西の流行。季節の移ろいを感じながら、百貨店で選んだバケットを片手に語り合う空間が豊かだと感じている。

⑥用がなくても立ち寄れる場所(たかし)

パーゴラに新たに張られたテント屋根の下で、天候に気にせず誰かに出会えたり、イベントに参加できたりと、わざわざ遠方まで出掛ける必要がなく、平日も休日も洛西の中で楽しく過ごしている。

洛西の10年後の風景

ロンドンとレッチワースの精神的な距離感を参考に、京都（洛中）と洛西の関係性を大切な視点として取り入れ、洛西ならではの、京都ならではの暮らし方を提案しています。田園都市や古都への原点回帰でありながら未来志向の暮らし方集です。行政も市民も事業者も住民も誰もがみな平等かつ前向きな姿勢で未来を紡いでいくことを想定しています。



公園/パーク

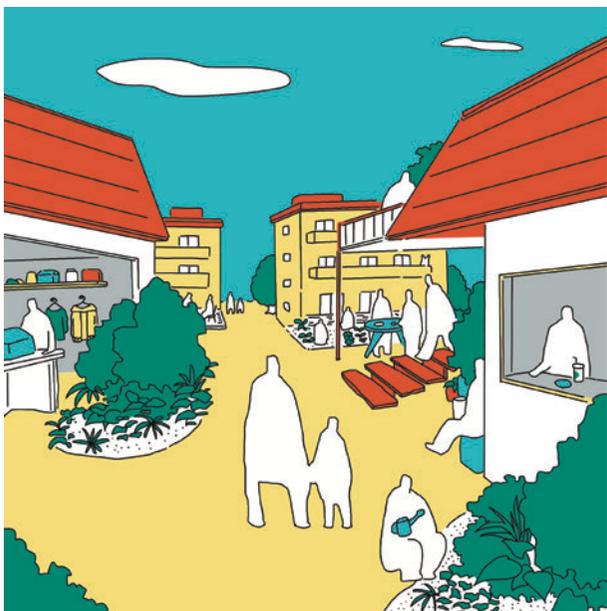
子どもやお年寄りに優しいのはもちろんのこと、若者、子育て世代から旅行者、ペット、動物に至るまで、みんなに優しい公共空間へ。規制が多く使いにくくなってしまった公園も、地域みんなの知恵と工夫で、誰もが集いやすい場所に。例えば、洛西の竹の間雑材を利用した遊び場をDIYで作ったり、ペットを連れた人々が集う場をつくったり。地域のみんなで運営しながら楽しめる、公園がみんなの庭となるような暮らし方へ。

サブセンター/サブスクエア

最寄りのハレの場として、地域の方々が地域の方々とともに地域のものを五感で楽しむ、みんなのマーケットへ。京都の素材で作られるビールやワインなどのマイクロブリューリーで地産地消を味わいながら、得意な音楽を持ち寄ったライブ音楽や季節のいい時期には広場で少しおしゃれをして屋外パーティーなども。地域を愛する人が集いやすいシビックプライドセンターや地域の様々な活動を支える屋外での貸借備品なども備え、日常が豊かになる暮らし方へ。

学校/スクール

義務教育施設の統廃合を背景に生まれる学校跡地は、地域のまちづくりの中心を担う場へ。例えば、地域住民だけでなく、観光客などの来訪者にも開かれた、年齢や国籍など関係ない多様な「学び」や新たな「チャレンジ」ができる場所として活用するなど、洛西ニュータウンだからこそ実現できる、新しいことに会うことができる暮らし方へ。



団地/タウン

戸建住宅、団地、テラスハウス、マンションなど、個々の住宅の「庭」や「共用部」を、これまでよりもほんの少し地域に開き、誰かだけの場所ではなく、みんなの暮らしの質を高める場所に。みんなが庭で同じ果物を育ててまちの特産品にしたり、団地の共用部分でシェア農園を運営したり。住むだけの場所を超えて、生産の場であり、食卓であり、井戸端であり、遊び場でもある、「住む」から「暮らす」へとマインドチェンジした、みんなでシェアする暮らし方へ。



大原野/ガーデン

西山山麓に多くの古墳や寺社仏閣が点在し、平安京以前の歴史を受け継ぎながらも、豊かな里山の原風景を残す大原野。この唯一無二の魅力に惹かれ、クリエイターなど様々なスキルを持つ移住者も増えている。大原野の豊かな田園の風景を守りつつ、洛西ニュータウンの都市的な暮らしとの一体感を醸成することで、本来の田園都市の理念を体現できる暮らし方へ。



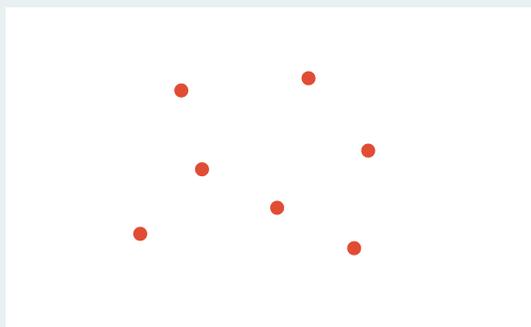
竹林

特産品としての「タケノコ」の生産地であり、洛西を象徴するランドスケープとなっている貴重な緑地空間。生産者の後継者不足により手入れが行き届きにくくなった竹林を活用し、地域住民や観光客が季節ごとの維持管理や収穫作業を体験する場や、イベント空間の場とすることで、身近で携わりやすい、洛西ならではの季節と食を楽しむ暮らし方へ。

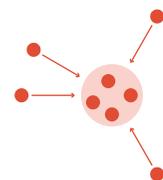
2033年に向けた洛西の展開フロー

2023

まちへの想いをを持った人が
行動に移し始める

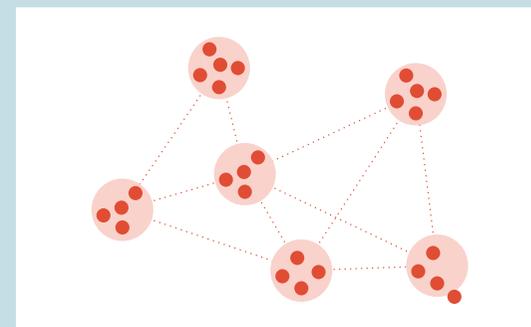


個々の活動が共感を生み
興味型のコミュニティが広がる



2033

様々なプレイヤーが入り混じり合い
洛西の新しい魅力を創出



現在実施している取組み

京都市では、洛西のまちづくりに多様な主体の参画を誘発するまちづくりの展開を目指している。

市営住宅の空き住戸活用



※写真はイメージです

コモンスペースとしての活用

市営住宅の空き住戸を、若者・子育て世帯向けの民間賃貸住宅として活用。東竹の里市営住宅では、団地自治会と連携して地域活性化に向けた様々な社会実験を企画・実施中。

市営住宅児童遊園のアートペイントPJ



アートペイント

市営住宅団地内の児童遊園にある遊具を対象に、洛西地域に在住のアーティストや団地内の住民と一緒に、ワークショップ形式でアートペイントを行うプロジェクトを実施中。

地元企業との連携



竹林キャンプ

地元企業と連携し、プロジェクトマップやドローンショー、放置竹林を活用した竹林キャンプ、竹林Meet Upイベントを実施。

共創企業との連携



せせらぎシアター

UR都市機構と包括連携協定を締結し、若者・子育て世帯の移住・定住促進などの具体的な取組を先行実施。小畑川河川敷を活用して、映画上映会「せせらぎシアター」を開催。

主宰 京都市都市計画局住宅室住宅政策課
制作日 2024年3月31日
企画・編集 ダン計画研究所・Open A/公共R不動産・studio-L
イラスト 小川 理玖

